

## Pratt Institute から教員と学生が来訪しました（2017/7/3-4）

テーマ：被災地視察

場所：災害科学国際研究所（仙台市）、東日本大震災被災地（名取市関上・岩沼市ほか）

7月3日から4日にかけて、ニューヨークにある大学Pratt Instituteから、教員と学生が都市教育活動の一環として仙台を訪れ、宮城県の都市復興状況を視察しました。Jonathan Martine教授によるこのPratt Instituteの教育活動「Japan Planning & Urbanism」は日本の都市を学ぶという目的で2012年から始まり、今年で5回目を迎えました。村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）は2010年（当時筑波大学所属）からその立ち上げに協力しており、Pratt Instituteとの交流を深めてきました。昨年に続き、今年も東日本大震災で被害が大きかった地域を中心に訪れ、復興について学びました。

1日目は、災害科学国際研究所（IRIDeS）にてその組織や研究内容の紹介を受け、ドキュメンタリー映画「大津波 The 3.11 未来への記憶 Tsunami」を鑑賞しました。

2日目は東日本大震災の被災地視察を目的として、村尾教授による調査に同行し、宮城県南部（荒浜、関上地区、岩沼市沿岸部）を中心に被災と復興に関する説明を受けながら、土地区画整理事業、沿岸部の防潮堤建設状況、災害公営住宅の現状などについて学びました。岩沼市玉浦西地区では、現地のコミュニティリーダーからまちづくりの取り組みなどの話を直接聞くことができました。

今後も日本の学生を交え、ツアーやワークショップなどを通じて更なる親睦を深めていく予定です。



被災影響が大きかった地域を説明する村尾教授



荒浜住宅地周辺の解説



現地コミュニティリーダーの話を聞く学生たち



村尾研究室前にて集合写真

文責：村尾修（地域・都市再生研究部門）